



JEACS

福音讃美歌 ジャーナル

2022.12 vol.34

ハイパーリンク付 PDF 版



CONTENTS

Page

座談会	李俊昊、土井康司、峯島平康	1
青年の讃美	飯田勝利	4
インタビュー		
	中城世宣、小川裕子、大嶋英知	4
礼拝を学ぶための本	中山信児	6

Japan Evangelical Association
for Congregational Singing

■座談会 教会福音讃美歌 奏楽音源 USB メモリについて

李俊昊 (JEACS 理事長・讃美歌委員)
土井康司 (JEACS 讃美歌委員)
峯島平康 (いのちのことば社 専務)

編集 皆さんお疲れ様でした。本日はこの音源について、経緯を最初から知っておられる峯島さんと土井さんに、そして新理事長の李先生から、そもそもこの音源がどんな流れで、どういう目的で企画されてきたのかということをお話ししていただきたいと思います。

土井 最初は『教会福音讃美歌』を使ってくださる方たちに讃美歌の曲を知っていただきたいというところから始まりました。それは歌集を編集した時、みんな願っていたことで、その一つの現れが『あたらしい歌』でした。全曲が新曲でしたから耳から聴かないとわからない人が多いので、CDを付属させて収録曲全部を聴けるようにしました。『教会福音讃美歌』506曲についてもそうしたいという思いがあって、そのために「ヒムプレイヤー」のような道も探りましたが、なかなか進展しないので、全5巻のCDを作ったり、ホームページに著作権の切れている曲をアップするなどしました。ただどちらも新しい曲全部についてはできませんでした。今回、音源を作る段階では、奏楽のために用いたいという願いも耳にしました。私としては、その2つ、曲を知っていただくことと、奏楽音源として用いていただくことを願っています。

峯島 2012年9月の『教会福音讃美歌』発行直後から、讃美の啓発と普及のために、耳で聴いてメロディーに馴染んでいただくためのツールの必要が課題としてありました。それに加えて、礼拝や集会で使ったり、個人が聴いて楽曲に親しんでいただくツールも必要ではないかということで、様々な可能性を探ってきて、ようやくここまで来れたというのが、これまでの経緯になると思います。

編集 李先生は、今回の音源制作にあたって、一番尽力してくださったと思います。何かあるでしょうか。

李 私が JECACS の働きに関わるようになったのは 2018 年でした。その時の理事会で、音源の話が出た時、無牧教会の必要について考えました。無牧教会や奏楽者のいない教会に奏楽音源を安価で提供できれば、どれだけ励まされるだろうと考えて、すぐ手を上げて、ずっと取り組んできました。実際に作業をする中で、これが曲を学ぶのにとっても良いことが分かって、讃美の幅が広がっていくんじゃないかと思いました。私自身も作業の間に、新しい曲を教会でも歌いました。私にとっても非常に良かったと思います。

編集 これまでヒムプレイヤー、CD-ROM、アプリなども検討したことが、どれもいろんな事情で頓挫してしまって、半ば諦めかけてたところで、李先生から韓国の奉仕者を紹介していただいたことは、この企画において大きなポイントだったと思います。お二人について紹介していただけるでしょうか。

李 今回、オルガンとピアノを演奏してくれた李恵姪（イ・ヘジョン）氏とエンジニアの徐輔郁（ソ・ボーウク）氏は、私の後輩で韓国の讃美宣教団のメンバーです。彼らにこの企画を話して、奉仕を打診した時に、時間をくれるならやりたいと、すぐその場で言ってくれたのでスタートできました。コロナのために彼らが外出する時間や回数も減ったことで、家の中で作業ができたというところもあったのかなと思います。彼らも非常にやりがいがあったという思いになったし、私も良かったと思います。

編集 李先生は韓国の奉仕者と日本の委員会の間におられましたから大変だったと思います。土井さんと峯島さんに、こういうところが大変でしたとか、感謝でしたとかいうお話をしていただきたいと思います。

土井 まず曲のテンポを定めるのに苦労しました。讃美歌は捧げる状況や人やあらゆる条件でテンポが変わるものですから、これをひとつに決めて 1 曲通すのが難しかったです。それからピアノとオルガンのバランスや、メロディーと伴奏のバランスを 1 曲 1 曲調整していくのも苦労しました。最後に、音の間違いのチェックで、メロディーだけでなく全声部を楽譜と突き合わせながらチェックしました。

峯島 いのちのこば社では実際の音源データ制作以外の業務を担当しました。資金面の検討に始まり、福音讃美歌協会との協議を重ねて、いろいろリスクはありますが一歩を踏み出したいということがありました。そうした中でなかなか見えてこなかったのが、この音源をどのくらい使っていただけるだろうかということです。「ヒムプレイヤー」を検討していた頃に、会員教団の諸教会にアンケートを取らせていただいたことがありました。その時に見えてきたのが、教会が求めているのがハードよりも音源のデータだったということです。今回、音源データを USB メモリに入れてご提供できたことは、本当に良かったと思っています。

編集 皆さん、制作での苦労をお話くださいましたけれども、製品が一度出来上がってからトラブルが見られ、返品してやり直すということがありました。あの辺りの経緯についてはいかがでしょうか。

峯島 完成したデータをいただいて、5 月に業者に納めて、6 月に製品ができ上がってきたんですけども、委員の先生方にサンプルをお送りしたところ、Mac で開いた時に一部の楽曲がそのパソコンの画面に表示されないという欠陥があることがわかりました。原因が文字コードの互換性の問題であったことが判明したので、Windows 版と Mac 版のフォルダーを作って、それぞれにデータファイルを入れることにしました。いのちのこば社のチェック段階で、問題を見逃していたことも大きなミスとしてありました。

土井 最終的にフォルダ別にいただいたのは良かったと思います。ただデータというものは年ごとに規格とかも変わってきますし、ちょっと扱いが難しいということは痛感しました。

李 2 つのフォルダに別々にデータを入れても容量が足りたということも感謝でした。用意していたのがもう少し小さな容量の USB メモリだったら、あの方法は取れませんでした。

土井 将来的には必要な曲があった時にネットからすぐ聴けるというのが理想だと思います。

編集 教会では、一步先を見ながら二歩後から来る方もフォローできるような体制が大事だと思います。

峯島 次はダウンロード販売ができたらいと思いますが、現時点では USB メモリでの提供は妥当な方法だったと思います。教会関係では広く用いていただきやすい形式だったのではないのでしょうか。

李 そうですね。皆さんの反応もやっぱりそういう感じでしたね。

編集 ありがとうございます。最初のお話とかぶるかもしれませんが、出来上がったこの音楽音源をどのように用いていただきたいかということを、一言ずつお聞きしたいと思います。

李 今回、教職者の研修会で皆さんの話を聞いた時に、奏樂者がいない教会や、いても毎週奉仕できないような教会で、ちょっと音源を使いたいというときに、USB メモリは使いやすいし、家庭集会などにもそのまま持っていけるというので、前向きに導入を検討されてる方がかなりいらっしゃいました。

土井 教会に届いた USB メモリを、試しに使っていただいているところですけれども、牧師の選曲に用いていただけるのがいいと思います。今まで歌詞が良くても曲がわからないで敬遠されてた曲を、すぐに聴いて用いていただけるのが嬉しいです。それから水曜日の祈祷会に奏樂者がいないことがあって、実際に使おうとしていますが、パソコンに挿して音を出すとちょっと音量が足りないことがあって、牧師が家電量販店を今回ってほどよい価格のスピーカーを探しています。それから個人で日常の讃美に用いていただきたいと思います。BGM として家事の後ろに流していく。歌詞がついてないことがこの場合はもしかしたら良い方に働くかもしれないですね。それから奏樂者が新しい曲に当たるときに用いられたらと願っています。

峯島 まずは、すでに『教会福音讃美歌』を導入してくださっている教会が、この音源を有効に活用してくださることを願っています。また、奏樂者がおられる教会でも、奏樂音源 USB メモリを持っていることで、いざという時のピンチヒッターになりうるんじゃないかと思っています。いのちのこば社では毎週職場で礼拝をもっているんですけれども、先日、奏樂者の一人が腱鞘炎で、もう一人がコロナに罹ってしまいました。そんな時に、この音源が大活躍してくれました。

これまでも個人の方から『教会福音讃美歌』のヒムプレイヤーについての問い合わせを数十件いただきましたけれども、やはり、ご家庭でもいつも讃美したいという方がおられて、高価なヒムプレイヤーを個人で購入してご自宅に持っておられることを聞いています。そうした意味でちょっと高いことは高いんですけれども、こういったものを家に備えていただいて個人でも、いつでも讃美に触れて親しんでいただけたらということも願っています。特にコロナ禍でなかなか集ってみんなで歌うことが難しい中で、この USB メモリで 529 曲の中からセレクトして、いつでも生活の中で讃美を口ずさむことができるとしたら本当に素晴らしいと思います。

土井 『教会福音讃美歌』を作ったときに、同時に出たら良かったんですけど、10 年かかってしまいました。讃美歌集の寿命は 30 年ともいわれていますから、あと 20 年で新しい讃美歌集を作るかもしれません。今回このような道が開けたので、次回がすごく楽しみです。

峯島 そうですね、あとはどういう媒体で出すか別としても、音源の提供について、今後も継続的に検討していきたいと思っています。また、今回この音源が出たことで今まで導入してなかったけれども、ぜひ使ってみたいと思ってくださったら、これより嬉しいことはないと思います。これが『教会福音讃美歌』が知られて普及していく一つの材料になってくれることを願っています。

編集 ありがとうございます。

主を讃美することはすべての主の民にとって大切です。詩篇 145 篇 10 節には「主よ あなたが造られたすべてのものは あなたに感謝し あなたにある敬虔な者たちは あなたをほめたたえます。」と記されています。しかし、詩篇 148 篇 12 節から 13 節には「若い男よ 若い女よ。年老いた者と幼い者よ。主の御名をほめたたえよ。主の御名だけがあがめられる。その威光が 地と天の上で。」と記されていて、「あなたにある敬虔な者たち」は全ての世代で、男性も女性も「主の御名をほめたたえよ。」と命じられています。

ここで、詩篇 148 篇 12 節が全ての世代を表現するときに、若い男と若い女がまず登場していることに注目させられます。箴言 20 章 29 節には「若い男の栄誉は彼らの力。」と記されていますが、若い男女がまず言及されるのは、全ての世代の中にあつて、その力強さや勢い、活力が際立つ存在だからかもしれません。青年の力強い讃美は上の世代にも下の世代にも波及して、すべての世代が主を讃えるように導くのではないのでしょうか。

『私の望みは主イエスだけにある』（教会福音讃美歌 359 番）で知られるキース・ゲティが現代の讃美歌作家を代表する一人とまで目されるまでになったきっかけは、彼がまだ 20 代の頃、教会のために良い曲を書きたいという情熱を持つようになり、自分の所属するバプテスト教会のために新しい讃美歌を創作し始めたことにありました。一人の「若い男」による情熱的な讃美の取り組みは多くの新しい讃美歌を生み出し、今や世界中の全ての世代が彼の創作した讃美歌で主を讃えています。

そして、主は日本においても、主の民の青年たちに讃美の賜物を与えておられます。このコーナーでは、そのような青年の讃美の取り組みを紹介していきます。讃美はコロナ禍にあつてマイナスの影響を大きく受けている状況です。しかし、青年たちの讃美の取り組みは教会全体を励まし、新たな讃美の局面を切り開いていくと期待しています。第 1 回は、日本福音キリスト教会連合（JECA）における青年の讃美の取り組みを紹介します。

インタビュー 中城世宣さん、小川裕子さん、聞き手：大嶋英知

2022 年 5 月 3 ～ 4 日に、JECA（日本福音キリスト教会連合）全国青年大会「DAWN」がオンライン（Zoom）で行われました。大会のメインテーマソングとして作られた「One Step」について、どのように讃美が制作されたかインタビューを行いました。今回、インタビューを受けてくださったのは、作詞・作曲をされた中城世宣さん（栄聖書教会・愛知県）と、アレンジを担当された小川裕子さん（グレースコミュニティ・北海道）です。

Q. 今回、行われた JECA の全国青年大会はどのような経緯で始まったのでしょうか。

中城：JECA では今まで青年の大会は行われたことがなく、他教団のような青年大会を自分たちもやってみたいという想いがあり、2018 年から青年同士で企画を始め、2020 年から準備委員が発足して、教職者の協力を得ながら準備を進めてきました。大会のテーマ「僕らの一歩」が決まり、「過去・現在・未来」の 3 つの視点を目標として大会を作ろうと話し合いました。「過去」は、イエス様が十字架でなさってくださいしたこと。「現在」は、その過去が受けて現在私たちが生かされていること、教会生活を送れていること、「未来」というのは「僕らの一歩」の一歩を踏み出していった先に。そういう時間軸の中で大会をやろうという事になりました。



Q. テーマソングを作るきっかけになった経緯を教えてくださいませんか。

中城：準備委員会の中でテーマソングもあったほうが良いのではという話になり、作詞・作曲ができる方に依頼することも検討しましたが、今回は大会の準備委員の中で作ってみようという話になりました。委員会の中に作曲などをやったことのあるメンバーはいなかったのですが、私が楽器を弾けるという理由だけで制作することになり、初めて作曲をしました。



Q. 制作への想いなどがありますか。

中條：テーマソングを作る以前にも、賛美歌を作ろうと試みたことはあったのですが、なかなかうまくいかず。今回もどうしようかと思っていたところで、ちょうど長沢崇史さんの YouTube チャンネルで「オリジナル賛美を作ろう①～③」というのがアップされていて、そちらを参考にしながら行いました。コードアレンジなどは、ワンパターンにならないようオリジナリティを出すために、aiko の曲のコード進行などを参考にしながら作曲しました。最初はおっかなびっくりでしたが、「僕らの一歩」というテーマと「イエス様が十字架にかかって復活、そして再臨まで」を意識しながら制作しました。長沢さんが動画の中で「僕は一番最初に作った人ではなくて、ファーストリスナーにさせていただいた感覚」と話していたのですが、まさに今回の曲は、作ったというよりは与えられた感覚でした。

Q. アレンジを行うにあたって気をつけたことなどありますか。

小川：私のほうでは、デモ音源と楽譜を照らし合わせながら、作曲された方の意図されている事を大切にしたいと思い、メロディラインの細かな確認や、コードアレンジについても楽譜から変更した方が良い場合などに中條さんに時間をとっていただいて確認する作業を行っていました。それぞれ楽器の細かな音楽的アレンジについては、バンドメンバーに任せていたのですが、ピアノを担当していたメンバーは、青年らしい若々しさや疾走感を意識しながら演奏していたと言っていました。



オープニング賛美
グレースコミュニティ

Q. 実際に、テーマ曲が大会で賛美をされていたかでしたか。



エンディング賛美 朝顔教会

小川：今回の大会は、全国の青年が Zoom を通して参加をしていたので、ハブとなる2教会からメインの中継を行っていて、グレースコミュニティは、初日のオープニングで賛美を担当しました。テーマソング「One Step」を歌う時は、これから行われる大会のプログラムに期待と希望を持って賛美をさせていただきました。最後のエンディングでもテーマ曲を関東の朝顔教会から中継で賛美されていて、私は自宅でパソコンの前で聴いて一緒に歌っていたのですが、その時は大会の中のメッセージや仲間と話したことなど、何か走馬灯のように思いついて、涙が溢れてきていました。本当に大会にふさわしい曲だったなと改めて思いました。

Q. 今後、新しい賛美について何か想いがありましたら教えてください。

中條：いっぱいやりたいことがあるのですが、まずは若い世代がもっともっと楽器に親しんで、上手くなっていくようにサポートしていけたら良いなと思っています。賛美については、洗練された曲・かっこいい曲を作りたいなと思っていて、取り組んではいるのですが、それがまだ上手くないのは、神様がそこに「Go」サインを出していないのかなとも思っています（笑）

小川：私はまだ作詞・作曲をしたことが無いですが、新しい賛美がもっともっと日本から産み出されていった良いなと思っています。「新しい歌を歌え」と聖書にあるように私の教会でも新しい賛美を作る取り組みはしていて、やっぱり海外から入ってきた賛美を日本語にするよりも、日本語の歌詞に曲をつけたものの方が歌いやすいと思うので、私自身も中條さんの話を聞いて賛美を作ってみようかなと思いました。

▼今回の JECA 青年大会テーマ曲の「One Step」は以下の URL にてご視聴・楽譜のダウンロードができます。 <https://youtu.be/29iKfAbHq8Y>

▼福音讃美歌教会では、賛美の作詞・作曲について定期的にセミナーを行っていますので、ぜひホームページをチェックしてみてください。 <http://jeacs.org/>

■礼拝を学ぶための本

中山信児

「福音讃美歌協会」の略称 JEACS は "Japan Evangelical Association for Congregational Singing" の略です。「讃美歌」ということばそれ自体は、広い意味を持っていますが、JEACS が扱う「讃美歌」とは、第一義的に "Congregational Singing" すなわち礼拝における「会衆の歌」です。そのため、礼拝についての研究と取り組みも JEACS の役割の一つになっています。ここでは 2 冊の礼拝学のテキストをご紹介します。

■由木康著『礼拝学概論』新版 2011 年、日本基督教団出版局

1960 年に本書の初版が出版されてから 62 年が経つが、日本人が著した体系的な礼拝学の本としては、未だに本書を超えるものは出ていない。近年、日本でも、神学としての礼拝学への関心は広まってきたし、特に英語圏の先進的な研究成果も意欲的に翻訳紹介されている。日本人が書いた礼拝についての書物も書店に並ぶようになってきた。しかし、それらはテーマや範囲を絞込んだものや、エッセイ、実用書がほとんどである。日本人の手で、日本の教会という視座から、礼拝を聖書的、歴史的、組織的、実践的に検証し、体系的な神学として書き留める作業は、本書以降長く途絶えている。

序論において「キリスト教礼拝の二傾向」として「預言者のおよび祭司の傾向」が提示される。この二傾向を基調とした考察は本書を通奏低音のように貫いているが、その妥当性についての批判もしばしば耳にする。この二傾向はあくまでも礼拝というものを理解するための補助線と考えるべきであろう。そのように用いながら本書を読み込むなら、その有効性を認めることができる。

本書の大きな流れ（構成）は一般的な礼拝史のテキストに準じている。本書の特徴としては「第九章 現代における礼拝運動」において「リタージカルムーブメント」を日本にいち早く紹介していることと、「第十章 日本における礼拝問題」において日本人の目で日本の教会の歴史と現状を検証し、課題を明らかにしていることの二つを挙げることができる。この二つの章は、執筆年代の制約を受けながらも、日本の——特に福音派の——諸教会にとって、今日においても大きな意義を持っていると言えよう。

■J.F. ホワイト著 越川裕英訳『キリスト教の礼拝』2000 年、日本基督教団出版局

本書は J.F. White "Introduction to Christian Worship" Revised edition (1990) の翻訳である。ホワイトは英語圏の代表的な礼拝学者であり、本書の他に『キリスト教礼拝の歴史』（2002）と『プロテスタント教会の礼拝 その伝統と展開』（2005）が邦訳されている。また "Documents of Christian Worship" (1993) は、本書と合わせて紐解かれるべき資料集であり、翻訳が待たれる。

訳者は、「キリスト教礼拝の入門書として企図された」本書を評して「20 世紀の礼拝学研究の一つの到達点を示すもの」と述べているが、この評価は今後も揺らぐことはないだろう。基本的なテキストの体裁を取りながらも、ただ礼拝の歴史をたどり、礼拝の個々の要素を解説するだけではなく、読者が礼拝そのものの本質を神学的に把握できるように記述され、さらなる議論に招いていることも本書の特色と言えるだろう。「第 4 章 聖務日課」、「第 5 章 み言葉の礼拝」、「第 7 章 入信儀礼」、「第 8 章 ユーカリスト」では、それぞれの主題について「歴史」「神学」「実践」の各方向から検討されており、実際の教会の現場において有益な知識と情報を提供してくれる。教会における建築、音楽、暦といった文化的要素も、礼拝学の構造の中でしかるべく位置づけられ取り扱われている。

将来、由木康の『礼拝学概論』とホワイトの『キリスト教の礼拝』を結ぶ線の延長上に、日本人の手による礼拝学が構築されることを期待したい。

＊会計報告＊

2022 年 4 月～2022 年 9 月

■収入の部■

科 目	2022 年度予算	中間報告
会員負担金	1,210,000	429,000
（正会員）	(750,000)	(250,000)
（準会員）	(60,000)	(60,000)
（賛助会員）	(400,000)	(119,000)
自由献金	400,000	57,000
積立金取り崩し	100,000	0
特別収入	0	0
その他	0	11,137
当年度収入合計（A）	1,710,000	497,137
前年度繰越金	2,181,347	2,181,347
収入合計（B）	3,891,347	2,678,484

■支出の部■

科 目	2022 年度予算	中間報告
理事会費	95,000	20,100
委員会費	90,000	25,080
人件費	360,000	180,000
事務費	225,000	96,594
ジャーナル発行費	240,000	49,734
カンファレンス開催費	165,000	20,550
総会開催費	0	0
JEA 関係費	90,000	91,324
経常支出合計	1,265,000	483,382
特別支出 積立金	100,000	0
予備費	900,000	0
当年度支出合計（C）	2,265,000	483,382
当年度収支差額（A） - （C）	-555,000	13,755
繰越額／残高 （B） - （C）	1,626,347	2,195,102

●賛助会費納入者・献金者一覧（2022 年 4 月～2022 年 9 月）（敬称略）

個人：福田崇、渡辺真理子、斉藤真木子、山村雅彦、本間昭弘、大賀勝範、篠田安子、匿名、（9 名）
 教会：キリスト教朝顔教会、馬天キリスト教会、都賀キリスト教会、結城福音キリスト教会、
 インマヌエル武蔵村山山田園教会、（5 件）

お名前の掲載を希望されない場合は、通信欄に匿名希望とお書きくださるか、メール（info@jeacs.org）で、その旨をお知らせください。

奏樂者による演奏で、
全曲のメロディーがわかる！

教会福音讃美歌

奏楽音源USBメモリ



福音讃美歌協会 編
いのちのことば社



※データ形式：MP3

制作 福音讃美歌協会 発売 いのちのことば社

『教会福音讃美歌』
『あたらしい歌2』の
526曲の音源を収録

数量限定
生産

『教会福音讃美歌』刊行 10 周年記念企画『教会福音讃美歌 奏楽音源 USB メモリ』
定価 39,600 円（税込） 発売記念特価 36,300 円（税込） 2022 年 12 月末日まで

いと高き所で、栄光が神にあるように。
地の上で、平和が みこころにかなう人々にあるように。
ルカの福音書 2 章 14 節

いつも福音讃美歌協会のためにお祈りとご支援をいただき感謝します。福音讃美歌協会の働きはすべて、皆様の祈りと献金によって支えられています。主にあるご支援をよろしくお願いいたします。また、正会員、準会員、賛助会員としてお支えくださる方々も募っております。ぜひご検討ください（詳細は[こちら](#)）。皆さまの上に主からの豊かな祝福をお祈りいたします。 福音讃美歌協会

◆郵便振替口座◆

番号 00220-1-95127
名称 福音讃美歌協会

◆ゆうちょ銀行口座◆

〇一八店 普通 7252410
一般社団法人 福音讃美歌協会

■福音讃美歌協会 ◆賛助会員募集

- ・「賛助会員」は、福音讃美歌協会の趣旨に賛同し、支援してくださる教会や個人の会員です。
- ・賛助会員のお申し込みは、福音讃美歌協会までメールか F A X で入会申込書をご請求ください。
- ・賛助会員の年会費は、一口 5,000 円で、個人は一口から、教会は二口からお願いします。
- ・正会員、準会員の詳細については、福音讃美歌協会まで直接お問い合わせください。



福音讃美歌協会 (JEACS)

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 2-1 OCCビル 602号室
Tel.03-5341-6920 Fax.03-5341-6921 (いのちのことば社出版事業部内)
ホームページ <http://jeacs.org/> メール info@jeacs.org
Facebook YouTube